



知ってる？野田宇太郎 ①詩人編

小郡市松崎出身の野田宇太郎は、“詩人”“編集者”“文学散歩の創始者”と幅広く活躍しました。今回は“詩人”野田宇太郎を紹介します。

野田は、明治42(1909)年に生まれ、立石尋常小学校、旧制朝倉中学校(現在の県立朝倉高等学校)、早稲田大学へと進みますが、病気のため学業を断念し帰郷します。その頃から詩作を始め、20代で3冊の詩集を刊行します。33歳で出した第4詩集「旅愁」は11,000部を売り上げ、詩集としては珍しいベストセラーとなりました。あのノーベル賞作家の川端康成も「詩集ができればひくくださいよ」と期待を寄せていたそうです。「旅愁」収録の「水鳥」は野田の代表作の一つで、故郷の松崎(桜馬場)には「水鳥」の詩碑も建っています。桜馬場の桜を愛でつつ、詩碑を訪れてみませんか。



新着

図書の紹介

今回はラベルが「6」で始まる“産業”の本を紹介します。産業といっても、農業・園芸・畜産・林業・商業・交通と幅広い分野があります。気になる本が見つかるかもしれませんよ。



使いきれない農地活用読本

農山漁村文化協会／編

611.2
叻

新型コロナウイルスの感染拡大によって、地方移住への関心がアップしています。都市近郊の市民農園は大人気な一方、人口減少と高齢化が進む農山村では「使いきれない農地」が増え続け、景観の悪化や獣害の要因になっています。しかし、手を加えれば、有機農業や自給菜園、養蜂の蜜源植物の栽培などの用地として活用できる地域資源です。

この本には、新しく農業で生計を立てたり、仲間と自給暮らしを楽しんだりするときに参考になる情報がたくさん掲載されています。



農家が教えるわくわくマメづくり

農山漁村文化協会／編

616.7
ㇿ

マメを育てると、畑にも人にもいいことづくしです。マメは空気中の窒素を根から取り込んで肥料とします。マメが育った畑の土は肥沃になり、連作障害も予防できます。さらにマメは生活習慣病で問題になるコレステロールを含まず、タンパク質やビタミンB群、ミネラルやポリフェノールなどが豊富です。

この本には、他の野菜と一緒にマメを植える方法や、緑のカーテン、プランター栽培のコツなどがたくさん掲載されています。